allcinema

惑星ソラリス（1972）

SOLARIS

メディア 映画
ジャンル ＳＦ
製作国 ソ連
色彩 Color
時間 165分
初公開日 1977/04/29
公開情報 日本海

【キャッチコピー】
謎の惑星『ソラリス』とは…？　そこには不思議な姿の生命が存在し　その豊かな海は理性を持つ有機体と判明！　これらの謎に挑むモスクワの近代科学陣が　宇宙船で軌道ステーションに出発する！
１９７７年の全世界的ＳＦ映画ブームにさきがけてＧＷに放つ堂々３時間の超巨篇！

【解説】
近未来、未知の惑星ソラリスの軌道上に浮かぶ宇宙ステーションで異常事態が発生。その調査のために科学者クリスは地球を出発する。到着したステーション内は荒れ果て、先発の３人の科学者は皆、狂気の淵に立たされていた。そして、クリス自身も数年前に自殺したはずの妻ハリーの姿を目撃し、言い知れぬ衝撃を受ける。だがそれは、人間の意識を反映して具現化させるソラリス表面のプラズマ状の海の仕業だった……。ポーランドの作家スタニスワフ・レムの『ソラリスの陽のもとに』をタルコフスキーが映画化。ソ連製ＳＦの代表作であると同時に、人間の潜在心理の持つ力を巧みに描き出した傑作。ソラリスがーーいや、結局はクリス自身がーー生み出した妻の幻影の描写など、まるで“愛の暴走”とでも言うべき狂おしさに溢れ、ラスト・シーン、クリスの意識を満面に受けたソラリスが創り出した情景には、深い郷愁の念を思い起こされる。“意識”の定義を大きく揺るがされる事だろう。ソラリスの海こそが、心の鏡であったのだ。これは、その鏡を覗き込んでしまったために、想いに取り憑かれた男の悲しい物語なのかもしれない。

【クレジット】

監督	アンドレイ・タルコフスキー	Andrei Tarkovsky
原作	スタニスワフ・レム	Stanislaw Lem
脚本	フリードリッヒ・ガレンシュテイン	
	アンドレイ・タルコフスキー	Andrei Tarkovsky
撮影	ワジーム・ユーソフ	Vadim Yusov
音楽	エドゥアルド・アルテミエフ	Eduard Artemyev
助監督	ラリッサ・タルコフスキー	Larisa Tarkovskaya
出演	ナターリヤ・ボンダルチュク	Natalya Bondarchuk
	ドナタス・バニオニス	Donatas Banionis
	ユーリ・ヤルヴェット	Yuri Yarvet
	ニコライ・グリンコ	Nikolay Grinko
	アナトリー・ソロニーツィン	Anatolii Solonitsyn
	ウラジスラフ・ドヴォルジェツキー	Vladislav Dvorzhetskii

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.